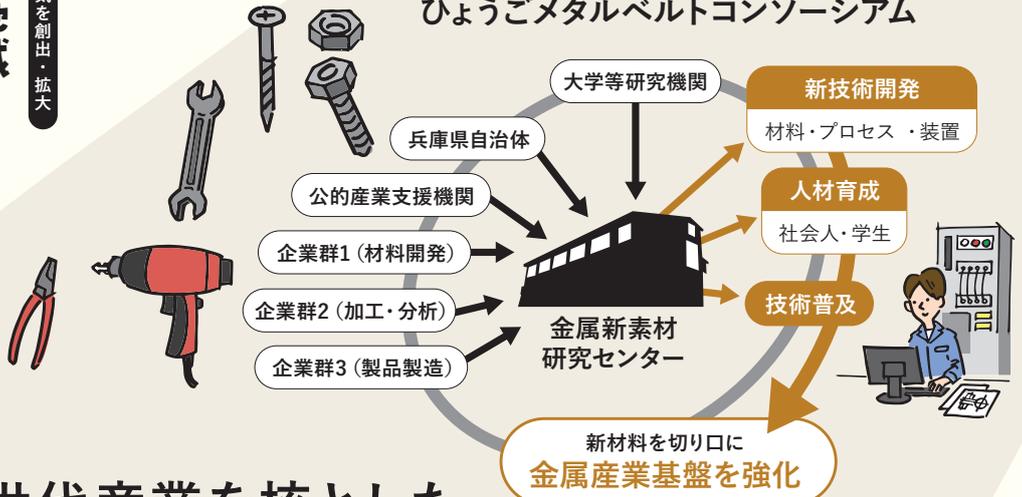




8つの地域
プロジェクト・
モデル

地域の元気を創出・拡大



専門家に
ご意見を伺いました

3 次世代産業を核とした 地域振興プロジェクト



今木辰彦さん

多田電機 応用機工場
第一製造部ビーム開発課



山崎徹さん

兵庫県立大学副学長・
金属新素材研究センター長

いま世界中で開発競争が進む金属3D積層造形技術を磨き、瀬戸内臨海部に延びる「ひょうごメタルベルト」を、世界をリードする地域に再構築する目的で昨年4月、兵庫県立大学姫路工学キャンパスに金属新素材研究センターが開設されました。センター長で副学長と産学連携・研究推進機構長を兼務する山崎徹さんと、国内初の電子ビーム型金属3Dプリンタを開発して同センターに納めた多田電機（尼崎市）の若いエンジニア2人に話を聞きました。



鈴木康祐さん

多田電機 応用機工場
第一製造部ビーム計画課

ひょうごメタルベルトには、日本の重工業を担う大企業からそれに付随して加工、製品化を担う中小企業群まで約1600社が集結しています。山崎さんは「金属に関するすべてがエリア内です。このポテンシャルを活かすには、連携して次世代の新金属素材や高度な成型加工技術を開発すべきと考えました」と説明します。

センターの開設費用約4億円は国と県が地方創生推進交付金事業として半分ずつ負担。県立工業技術センターの姫路サテライトとして県内企業の共同利用も可能です。開設記念式典・セミナーを行った昨年7月から募集したコンソーシアム(上図参照)の会員は本年2月末現在で企業・団体含め104と順調にスタートしました。

センターには電子ビーム型とレーザービーム型、2つの金属3Dプリンタがあります。多田電機製の電子ビーム型は、真空内でチタン系合金などの金属粉に電子線を照射し、70ミクロンの成型を重ねて複雑な形の部品を短時間で作るもの。「技術力に、創造力の翼を。」をスローガンに掲げる同社は、従業員約320人の



電子ビーム型金属3Dプリンタで成型した試作品

4割以上が40歳以下というフレッシュな戦力が集まる会社。開発課の今木辰彦さん(33)は「自由度が高い装置なので知見を重ね、この分野でシェアNo.1を目指したい。メタルベルトでつながる企業群の存在を知り、力強く誇りに思います。成型に使われなかった金属粉を再利用できるのかなど、検証が必要な作業などを連携してできれば」と期待しています。顧客にサンプル加工を見せて販促に従事する計画課の鈴木康祐さん(24)は「結果次第で受注が決まる。他分野開拓を広げたい」と意欲的。

講習会やセミナー、試作品開発など、コンソーシアムの様々な仕掛けで企業同士のマッチングに注力する山崎さんは「精密加工技術は日本の得意分野。新しい金属3D積層造形技術を普及させる基盤は、モノづくりにある。中小企業も含め、その伝統を持つ企業に、センターで実際に金属3Dプリンタに触れ、何ができるかを知ってもらえば、メタルベルトの技術はさらに高度になっていくはず」と力強く話しました。



電子ビーム型金属3Dプリンタの前で説明する今木さん



▶さらに詳しく

4 播磨歴史回廊 プロジェクト



姫路、龍野など城下町の町並み、利神城などの中世の山城、室津や坂越などの港町が全国的にも知られる播磨には、隠れた地域資源がたくさんあります。安倍晴明らの陰陽師や宮本武蔵ゆかりの地、刀剣の材料で有名な穴粟鉄（千草鉄）、明珍火箸などなど……。美作から太子町、高砂市を結ぶ宮本武蔵生誕の地を巡るツアー、感状山城、城山城、置塩城、竹田城など赤松氏ゆかりの城巡りツアーは“歴女”たちの注目を集めそうです。また、醤油・酒などの発酵食文化や歴史を体験できるツアーとあわせて播磨の歴史と文化を味わえるツーリズムを推進します。

5 リゾート・産業・文化を活かす 「但馬ワークスペース・プロジェクト」

豊かな自然やスキー・温泉リゾート、芸術文化、食など多彩な地域資源を有する地域を舞台に、リモートワークやワーケーションモデル・プロジェクトを展開し、新たな事業創造に取り組む「但馬ワークスペース・プロジェクト」。出身地の豊岡で昨年、子育て中の女性たちが働く事業所を立ち上げた(株)ノヴィータ代表取締役会長の小田垣栄司さんに聞きました。

ノヴィータは東京に本社を構える、販促活動等を支援するデジタルマーケティングの会社です。社名はイタリア語で斬新。マーケティング支援事業を主とする傍ら、働き方についても注目。様々な女性の働き方をWEBサイトで発信したり、社員のリモートワーク体制を整えたりもしてきました。

なぜ豊岡で女性の働く場を? 「女性も男性も自分らしく働けば本来、楽しいはず。場所にこだわらない働き方ができるリモートワークには大きな可能性がある。IT技術を使って東京や世界で当たり前になっている、自分にとっては普通の働き方を意識醸成された豊岡でやっただけ」。小田垣さんは、豊岡市による丁寧な意識改革を高く評価します。「数年前から女性のプライドを高めようと、駅前の子育て支援センターで、日本



豊岡市内の事業所で働く女性たち (写真提供: ノヴィータ)

中から優秀な講師を招いて意識を変えていかれた。そこに参加した女性たちが、うちの当初メンバーとして働き始めました。地元のパテンシャルを引き出そうと、具体的な動きを長期にわたって続けた自治体で事業をすると驚くほどスムーズに運びますよ」

豊岡拠点立ち上げ時は在宅勤務のみでしたが、子連れ出勤できる場があったほうが良いと幹線沿いで駐車場のある戸建ての平屋を事業所に。現在、6人が随時働いています。

来春開学予定の兵庫県立国際観光芸術専門職大学(仮称・認可申請中)に大きな期待を寄せています。「大学があることで新しいビジネスが生まれる。最高に高度なIT技術はコミュニケーション。学長予定者の平田オリザさんは、人間の動きをまねるロボットを作る時『その動きを0.2秒』など勘所を押さえたアドバイスで見事に実現させたそうです。演劇などの芸術は小手先のスキルでなく、研ぎ澄まされた人たちの高度な趣向に応える表現を生み、再現できないその瞬間を感じる最先端のITをひらく気がしています」

専門家に
ご意見を伺いました



小田垣栄司さん
(株)ノヴィータ
代表取締役会長

6 二地域居住・ 都市農村交流推進 プロジェクト

京阪神から1時間程度という都市近郊でありながら、日本の原風景ともいえる田園空間や全国ブランドの農産物、丹波焼・丹波布などの伝統工芸、篠山城・黒井城などの観光資源、丹波亀化石発掘をはじめとした学術資源など豊富なコンテンツを持つ丹波は、都市農村交流や二地域居住の場として魅力的です。

例えば、集落全体をホテルにしたスイスのコリッポ、分散型ホテルが点在するイタリアのアルベルゴ・ディフーズのようなイメージです。

「泊まる」「体験する」「学ぶ」を柱に、様々な事業が展開できます。都市住民が「何度も訪れたい」地域を創ります。



▶さらに詳しく

